

鳥取神青通信

第12号

創立40周年記念
発行元 鳥取県神道青年会
編集 西部青年神職会

就任挨拶

鳥取県神道青年会

会長 須山倫史



この度、鳥取県神道青年会総会に於きまして会長に推挙頂き、就任に際しまして挨拶を申し上げます。

平素は、青年会の活動にご理解とご協力を賜り深く御礼申し上げます。歴代会長先輩諸賢が積み上げられた実績の重さに敬意を表し、重責を痛感致す所でございます。伝統ある青年会と斯界の更なる発展に微力ながら全力を尽くす所存でございます。

さて、鳥取県神道青年会に於いては神道青年として意識高揚と自己研鑽の実践

に努めるべく事業計画を掲げ諸活動に取り組んでおります。

先ず、今年は大東亜戦争六十年及び日露戦争戦勝百年の節目に当り、神道青年全国協議会の指針にもあります英霊顕彰の発展的展開を念頭に置き、鳥取県護国神社へ幣帛を献奉り、会員はもとより意識の高揚に務めております。

また、平成二十五年に斎行されます第六十二回式年遷宮に於いても、本義を見据え、神宮大麻の奉斎、参宮等、若年層の奉賛を目指

し啓発活動に務めて参りたいと考えております。

そして、今期一大事業でもあります「中央研修会」が控えておりますが、当県では前例に無い全国区の事業であるため、「五十年に一度の大祭」と銘打って会員個々の叡智を結集し、情熱を傾け、成功に向けて準備に余念がございません。

平成十八年三月二十三日、二十四日に開催されます大会に向け、県下会員の総力を挙げて必ず盛会裡に終える事が願いであると共に、納得のいく充実した研修会にしたいと考えております。

終わりに、県内各宮司様には青年会の活動に際しまして、日頃よりご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げますと共に、今後とも

退任挨拶

鳥取県神道青年会

前会長 横山景昭



この度、平成十七年度鳥取県神道青年会総会を以て、二年間の会長任期を無事終えることとなりました。

思い返しますと「第三十七回中国地区氏青神青合同研修会」「鳥取県神道青年会創立四十周年記念事業」等々の大きな事業を抱えた多忙な二年間でありましたが、どの事業も大成功に行うことができました事喜んでいるところでございます。

各事業等を盛会裡に終える事が出来たのも、会

ご指導ご鞭撻賜ります様宜しくお願いを申し上げます。

員各位の惜しみない協力のおかげだと心より感謝致しております。また、諸先輩方の心強い励ましに改めて御礼を申し上げます。

任期中、幾度と自分の力不足を痛感し、悩んだ日々が思い出されますが、今になって思えば大変貴重な勉強をさせて頂いたと思っておりますし、是非この経験を今後役立てることができれば幸いと考えております。

本年度は神道青年全国協議会中央研修会を鳥取県で開催致します。この大事業が須山新会長の基、会員各位が今まで以上に一致団結され、熱意あるご尽力を頂くことにより、必ずや成功されますことと確信致しております。

会長退任にあたり、任期中お世話になりました皆様に御礼を申し上げますと共に、本会の益々の飛躍をお祈り致します。

鳥取県神道青年会創立四十周年記念事業

奉告祭

平成十七年五月二十八日、午後二時より鳥取縣護國神社に於いて四十周年記念奉告祭を肅行致しました。当日は天気も良く、護國神社の境内からは鳥取砂丘と日本海を臨む素晴らしい景色を見ることが出来ました。

県青年会からは直前会長の横山氏と青年会会員二十一名の参加。私どもは午前九時から護國神社にて奉告祭の準備を始めさせて頂きました。

午後一時半、来賓の方々がお到着し始めると緊張が高まりました。永江鳥取縣神社廳長、今岡副廳長、戸田神社總代会副会長をはじめ神社庁理事、各支部長、副支部長、青年会歴代会長、青年会OB、県女子神職会会長、副会長と合わせて二十余名の皆様にご参列して

頂きました。また、神道青年全国協議会からは永井会長、多田副会長、理事、中国五県青年神職協議会からもご参列を頂き、総勢五十名を越える奉告祭となりました。

奉告祭では、祝詞奏上の際若葦会、中部青年神職会、西部青年神職会による舞楽奉納があり、鳥取県の中でも地域により、かなり異なる舞楽があることに興味をもつて観ることが出来ました。一時間余りの祭典を終えて記念撮影、記念植樹を行いました。

奉告祭の行われる二週間前、若葦会会員が「おがたまのき」を護國神社境内にあらはじめ植えておいたのですが、横山氏は、「二週間で枯れてしまうのではないか、水を遣りに行かなくてはいけないのではないか。」と心配した様子でした。

典儀は現会長



剣舞・若葦会



散供・西部青年神職会



剣舞・中部青年神職会



掛介麻久母畏後鳥取縣護國神社乃御前爾鳥取県神道青年会副会長安昌史 恐美恐美母白左久 惟神乃道爾仕間奉里志
青年神職諸々 県内乃神道青年相互乃親睦手園里神社乃
昂揚爾寄手須留事手目的止志 各母各母相寄里相議里互
去志昭和三十八年鳥取県神道青年会手起志互里
早久母四十周年止云宇記念須倍位年手迎爾奉留事止余里互
此乃佳位時爾神社乃境内爾記念樹オガタマ乃本手植樹須留
事止余里奴 故今日乃生日乃足日爾此乃由告奉里互 因乃為
大位勲功手樹互 香細志位御名手遺志互 今波此乃大宮爾
護國乃神止仰礼給比御靈床高久安麻里坐須命等乃御前爾
御食御酒種々乃味物手机代爾置位足波志 又終戦六十周年手
迎宇留爾當利互 神道青年全国協議会手里幣帛献奉里互
拝奉留狀手平良介久安良介久 開食志互 御前爾奉留御神樂乃
技手母愛具志美志止 見曾奈波志志志互 今手里位先会員諸々
互爾相戒米相扶介睦備和備清位直位志位誠乃心手養伊互
惟神余留大道爾隨伊奉里互 皇神手敬伊大君手尊備奉留
國民精神弥爾 御因乃為社会乃為爾愈々忠実爾勤志久
励麻志米給伊互 鳥取県神道青年会神道青年全国協議会乃
行久未守里導後給伊 弥益々爾光榮有良志米 給爾止恐美恐美母白須



斎主、玉串奉奠へ



▲記念式典・神社廳長より御祝辞



▲護国神社にて記念撮影



▲会長挨拶



▲表彰者代表謝辞



▲奉告祭・参列者

記念式典

奉告祭と同日、午後五時より鳥取市内のホテルモナークにて記念式典を行いました。護国神社からの移動を心配しておりましたが、混乱はありませんでした。

式典では、横山氏が県青年会四十年の歩みを報告し、来賓の方々に御礼を申し述べた後、永江廳長と神青協永井会長から御祝辞を賜りました。歴代会長表彰では、第十二代会長の霧林氏、第十三代会長の木山氏に感謝状の授与が行われ、平成十六年度と神青協理事として活躍された中嶋氏にも感謝状の授与が行われました。その後は同会場にて祝賀会を行い、参加して頂いた皆様と懇親を深めることが出来ました。

最後にりましたが、四十周年記念事業にご参加賜りました関係各位には、重ねて御礼申し上げます。

は一つの区切りであったのと同時に、創立五十周年に向けての一步でもあります。その大きな一步が平成十八年三月に行われる神道青年全国協議会中央研修会です。この事業を機に会員の結束をより強固にし、斯界の発展に取り組み所存でございます。今後ともご高配とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

(櫃田康二)

「おがたまのき」

記念植樹について

鳥取県神道青年会四十周年記念事業の一つとして、鳥取護国神社の境内に「おがたまのき」を記念植樹させて頂きました。

この「おがたまのき」は「モクレン科」の常緑高木で、常緑であることが尊ばれ神木とされ、この樹の枝を神前に供えて神霊を招くという意味の「招霊」が転じて「おがたま」と呼ばれるようになったようです。

また「おがたま」はすなわち「小香美」で、「おか」は「小香」つまり香りのことで、「たま」は実の形が「玉」に似ていることより名づけられたともいわれています。

五、六月に黄色味があった白色で良い香りの花を咲かせ、十、十一月に小さな実をつけ、熟すと裂けて種子を出します。

神前にお供えするのは榊ですが、元は「おがたまのき」であったという説があることから、記念植樹にこの樹を選定させて頂きました。

(戸板重則)



「おがたまのき」植樹当日

平成十七年度は鳥取県にて開催さる 神道青年全国協議会中央研修会

神道青年全国協議会は、昭和二十四年、敗戦という壊滅状態にさらされた我国の混乱、挫折の中から、民族精神の復活、国家再興への気概を込めて全国の青年神職が結束し様々な運動を展開することを目的として結成され、四十七都道府県にある県青年会（単位会）から構成されております。

会員数三千二百八十七名（平成十六年度末）、現会長は北海道地区選出の永井承邦氏です。

神道青年全国協議会では、教育問題、家族や地域社会の崩壊といった問題、或いは拉致・領土等の国益に関わる問題、国を護って頂いた英霊に対する顕彰の問題等々の時局問題に取り組むと共に、皇室を中心とした正しい日本の伝統と文化、そして美しい日本の心を子供たちへ継承するための育成活動など、

様々な事業を展開しております。

その事業の一環として、神青協中央研修会があります。全国十地区で毎年持ち回りにて開催される研修会には、三百人規模の志を持つ神職が集います。研修会を通じて神職としての研鑽を積み、親睦を深め、明日の神社界を担うに足る青年神職となるべく一意専心の思いで取り組んでおります。

平成十七年度の中央研修会を、中国地区主管にて引き受けることとなり、我が鳥取県神道青年会が担当して執り行うことになった次第でございます。前例のない大事業を成し遂げるには、青年会一丸となって向かうは基より、諸先輩方の豊かなご見識を拝借せねば、到底成し得るものではございません。

この大事業に柔軟に対応

すべく、昨年八月の鳥取県神道青年会総会におきまして、神青協中央研修会実行委員会を組織し、正副委員長、事務局、実行委員を選出しまして会議を重ねております。一応形式として枠組みをつくってありますが、県青年神職それぞれに得意な分野が活かせることもあり、実行委員会には誰が出席しても良いこととしました。

そうして今までに十二回（平成十七年九月九日現在）の実行委員会にて話し合った結果、中央研修会を平成十八年三月二十三日、二十四日の両日に行うこととしました。

主題については、皆が知恵を出し合って協議し、和魂漢才、和魂洋才、といった言葉から、「漢、または西洋の技術は確かに素晴らしいが、『日本』と呼べるべき伝統文化をおろそかにしてはならない。」という意をとりまして、「和魂（わこん）」あるべき日本人の

姿を求めて」という主題を打ち出しました。これには大和魂、伝統を受け継ぎ、次の世代へと繋いでいく、今では希薄になりつつある人と人との繋がりを、日本の伝統である祭りを通して強くしていくといった思いが込められております。

講師には、衆議院議員で元国務大臣防衛庁長官の石破茂氏、吉本興業漫才師の宮川大助氏、今年の国民精神高揚運動合同研修会にてご講演頂き大変好評であった、鳥取木鶏研究会代表の徳永閑典氏といった、いずれも鳥取県出身にて活躍されている方々にお願ひしております。

私たちが、日本人としての誇りをもつて、この美しい国『日本』で、平和で豊かな生活を営めるように、若さと行動力をもって活動して参りますので、ご理解とご協力、ご支援を頂きますようお願い申し上げます。

（小坂雅彦）

神青協中央研修会 決起集会開催

前述の研修会を我が鳥取県神道青年会が主管にて執り行うこととなった次第ですが、如何せん当県では前例のない大事業につき、先ずは諸先輩方の豊かな御見識を拝借し、青年会の弾みとするべく、決起集会を去る平成十七年二月二十六日、湯梨浜町の旭国民宿舎水明荘にて開催致しましたところ、永江則英神社廳長、今岡莊吾副廳長を始め十八名のご臨席を賜はり総勢四十二名の集会となりました。

定刻となり、横田康一前事務局の司会のもと開会。安江昌史前副会長の先導による神宮遙拝。横山景昭前会長の挨拶とお願い。中嶋俊史神道青年全国協議会前理事の挨拶と中央研修会の説明。小坂雅彦実行委員会事務局渉外係、今岡靖史同会場係による概要報告及び会場説明、予算説明と滞り

なく進み、永江神社廳長、吉田武章第六代青年会長、佐々木克秀第九代青年会長より夫々激励の辞を頂きました。須山倫史実行委員長決意の辞では青年会執行部全員登壇し、委員長決意表明の後、全会員襟を正して今一度この大事業に立ち向かうべく、心一つに決意を新たにしました。

池田豊磨第二代青年会長の発声により懇親会へと進み、会員各個に諸先輩方から御意見、御提案を拝聴し、今岡副廳長の中締めとなる激励の挨拶を頂き、盛会の内に終了致しました。

東・中・西 単位の取り組み

東部若葦会

若葦会は昨年発足四十周年を迎え、本年より新たな息吹を興すべく、更なる自己研磨と特に鳥取縣護國

神社の奉仕に重点を置いて活動を行うべく取り組んで参りました。

鳥取縣護國神社の年二回の例大祭では祭典奉仕並びに衣紋着付け奉仕や衣紋講習を行うことで、多くの先輩神職も集われる中で若年神職が直に見聞きをしてご指導を仰ぐ、正に実践の中での研修が行える良い機会となっております。又、年末にはボーイスカウトの子供たちと護國神社合同清掃修繕奉仕（参加者約二十名）を行い、青少年とのふれあいの中で共に学ぶ貴重な場となっております。

夏季研修会では、因幡相伝楽講習・祭式講習など、正しい所作をもって神明奉仕にあたる神職としての心構えの基本を習っています。更にこの研修会では、深山幽谷の中で禊（みそぎ）を行うことで、清清しくも心地よい緊張感と会員相互の一体感が生まれます。又、研修会場は旧鳥取・岩美・八頭・氣高地

区持ち回りで毎年会場をかえて行うことで、様々な条件のもと新鮮な気持ちで行っています。

以下、様々な研修や奉仕の後には皆々が集い共に杯を酌み交わす事で、お互いを理解し合い、心を通わせ話合える盟友へなるよう努めています。

昭和三十八年に東部（旧因幡の国）の青年神職有志により発足されてから相互の親睦と自己の研鑽を目的とした若葦会は、その意志を受け継ぎ更に大きく茂り続けています。



因幡相伝楽講習風景

中部青年神職会

中部青年神職会は、会員が少ないながらも、活動を続けてきているところであります。

九月には琴浦町の「船上神社」への登拝と清掃奉仕活動を実施しました。険しい山道を登るのはまさに修行のようでした。引き続きキャンプを行い、会員のみならず家族の参加もあり、家族の相互理解や親睦を深めることが出来ました。

二月には湯梨浜町の「松崎神社」にて建国記念祭を奉仕致しました。これは本会の伝統ある行事の一つであり、あいにくの降雪という天候ではありましたが、多くの会員の参加もあり、盛会となりました。

四月には琴浦町の「みどり苑」において健康長寿祈願祭を行いました。本会の活動の中ではまだ回数の浅いものではありますが、入所者の皆様からはたいへん好評を頂いており、今後も続けて行きたい

活動の一つであります。

本会でも中部地区の杜家の絶対数が少ないこともあり、会員の減少に苦慮しているところでもあります。来年には鳥取県で中央研修会を開催することもあり、本会でも微力ながら開催に向けての準備に参加しているところです。また、鳥取は鳥取のやり方で全国に発信して行きたいと考えています。

今後も会員の増加、更なる活動の充実を当面の目標としながら、新しいものにもチャレンジして中部青年神職会を、盛り上げて行きたいと思っています。



建国記念祭

西部青年神職会

西部青年神職会では、平成十六年度事業として、五月十四日に、二年ぶりの「史跡めぐり」を実施しました。

終戦六十周年の節目にあたり、広島県呉市に開館したばかりの呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）をはじめ、旧呉鎮守府司令長官官舎を中心とする「入船山記念館」や、潜水艦を間近に見学できる「アレイからすこじま」など、海軍都市・呉市の歴史をたどり、平和について考えようと企画した今回の「史跡めぐり」には、小・中学生五人を含む計三十三人の方にご参加を頂きました。

呉市に入ってまず正式参拝したのは、旧呉市内の総氏神・亀山神社。入船山記念館にほど近いこのお社は、広島県神道青年会の大刀掛前会長の本務社でもあり、大変温かい歓迎を受けました。今回の旅の目玉であった「大

和ミュージアム」は、今年四月二十三日に開館したばかりの新しい施設で、呉の歴史を、その背景となった世界・日本の動向との係わりの中で紹介しています。写真や映像などに加え、十分の一大きさで忠実に再現された戦艦「大和」や、実物の零式艦上戦闘機、人間魚雷「回天」などの資料が展示されており、戦争の悲惨さや平和の大切さを改めて実感しました。

見せかけの平和の中に安穩としながら、実際は多くの外交問題を抱えている現在の我が国のあり方に、一人の国民として、また神職として何を感じ、どう行動するのか。ご参加頂いた諸先輩方や子どもたちにも、それぞれの視点から考えて頂いたことと思います。

西部青年神職会では、今後も引き続き「史跡めぐり」事業に取り組んで参りますので、皆様のご参加をよろしく願います。

史跡めぐり



新入会員紹介

氏名 春菜将宏
奉務神社 日笠田神社
所属 若葦会

この度、鳥取県神道青年会に入会させて頂きました、春菜将宏と申します。

神職となつて今年で三年目を迎えますが、私共に課

せられた使命の重大さを強く感じております。この伝統ある鳥取県神道青年会で、諸先輩方と交流させて頂く中で、色々と学ばせて頂き、早く皆様方のお役に立てる様努力したいと思っております。



氏名 飯田秀篤
奉務神社 加知彌神社
所属 若葦会

はじめまして。この度神道青年会に入会させて頂くことになりました飯田秀篤です。昭和四十六年二月十一日生まれ、現在三十四歳

です。鳥取西高から法政大学法学部に進学、卒業し、名古屋市内の民間企業で九年近く勤務をし、その後、鹿野の実家の方に戻ってきました。

神事の時には齋員として見習いを続け、平成十六年に大社國學館において直階講習を修了し、同年十月より加知彌神社の権禰宜としてお祓い、神事を中心に神楽を奉納するなど活動を続けています。

今後は、神職の先輩方や、氏子の人々とも関わって見聞、知識を広げて参りたいと考えていますので、ご指導宜しくお願い致します。

音楽やラジオを聴くのが趣味で、山下達郎さんや松任谷由実さんの曲が特に気に入ります。

